

## 昔の暮らしは持続可能な暮らし、体験

対象：SDGs を学びたい小中学校の教員、子供会の指導者

(この内容をもとに小学校高学年、中学生向けに、今後発展)

人数：5～20人

教科/分野：

授業時間数：10 時間(一泊)

場所：南房総市 和田町 自然の宿くすのき周辺

ESD プログラムへの 想い	地域全体が高齢化、過疎化 昔からの豊かで土地に根差した暮らしが、人と一緒に消えつつある 他方、昔からの暮らしは、 <b>現在必要とされる SDGs の達成後の姿に通ずる部分もある</b> ので、そのことを体験しながら証明したい
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者が、NO PLASTIC (プラスチックに頼らない生活) を考えるきっかけとなる</li> <li>・造る責任、使う責任について体験しながら考えることができる</li> <li>・学習者が、50 年前 (あるいはもっと昔) の暮らしの中に、これからの自分の生活に活かせることがあると理解する</li> </ul>
特徴	<p>竹にフォーカスし、暮らしのすぐ近くで、自然が生産する素材で、使えるものを造り、使用後はまた自然に返せるというプロセスを、楽しみながら体験できる</p> <p><b>【体験例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地主に挨拶 (暮らす人がいるから、この環境があることを理解する)</li> <li>・竹を切る</li> <li>・水筒を造る</li> <li>・山を歩きながら、残るごみ、消えるごみを考える</li> <li>・水を飲む、水はどこから? を考える</li> <li>・竹はどうなる? → 放置する、埋める、炭にする、など (経年変化を写真で送る)</li> </ul>
持続可能な社会づくりの構成概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会の若い層が SDGs を学ぶということが、今消えつつある田舎の集落に利益を落とす構造を造る (相互性)</li> <li>・お金の動きと生きる知恵の移動が、等価で交換されることで、お互いの社会の持続性を高められる (連携性)</li> </ul>
重視する能力・態度	5) 進んで参加する態度： 手を動かす 足を動かす (考えるのは後でもいい)
プログラムの流れ	

時間	ねらい	方法 場所	内 容
60 分	地域の暮らしの紹介／地主さんお話	スライド 講堂	昔からの地域の暮らしが、今、未来に向けて求められている SDGs の達成後の世界に通ずる点があることを考え始める そこに暮らす人がいることを忘れないようにする
120 分	暮らしのそばに素材があることを知る	山に入り竹を切る	暮らしのすぐそばに、暮らしに役立つ道具を造る素材があることを、山に入り、竹を切ることで体験する
120 ～ 180 分	道具は作れる、を知る	水筒を造る 講堂	切ってきた竹で水筒を造る 鋸、錐、ナイフなどの使い方、手入れ方法も学ぶことで、造ること、を暮らすことの一部にとらえられるように意識してもらう
240 分 (翌日)	造ったものを使う	ハイク 花嫁街道	造った水筒に水を入れ、山を歩く 集落の歴史に持続可能性のヒントがある事を伝えながら歩く (花嫁街道は山の集落と海の集落が交わり、多様性を深め、レジリエンスを高めるための知恵の結晶)
	消えるもの、消えないものについて考える	ハイク	山の中にあるもの、見えるもの、何が残って、何が残らないのか 鉄、プラスチック、ゴム、コンクリート、陶器、ガラス、木、農薬、酸素、二酸化炭素、におい、など
60 分	水について考える	ハイク	なぜ、川の水は飲めないと思っているのか、 どうしたら飲めるのか、 今、飲んでいる水はどこから来たのか (近くに小さなダムがあるので、そこも活用できそう)
	クロージング	話し合い 講堂	フィジカルな疲れをいやしながら ・自分の暮らしに使いそうな自然素材を考え、伝え合う ・今、プラスチックで造られているものは、50 年前は何でできていたのか話し合ってみる (検索もあり) ・自分たちがいるのは、後期鉄器時代か、プラスチック時代か 長い歴史の中、後世の人が自分たちの時代を定義するとしたら何と呼ぶだろうか、考える ・次回、「くすのき」に来たらやりたいことを決める ・みんなに感謝、ありがとう
SDGs との関連性	12. 造る責任、使う責任		

学校・地域等との連携上の考慮	山も竹も誰かの土地のもの あいさつ、感謝、も、SDGs の大切なポイントと理解する
対象を発展させる可能性	<p>下記のテーマと連動・発展させる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水はどこから？</li> <li>・竹で炊くご飯</li> <li>・暮らしのそばにある素材で、使える道具がどこまでできるか挑戦</li> <li>・季節によっては、早朝ハイクやナイトハイクの実施（星がきれい！）</li> <li>・夏と冬の暮らしの違い（二回来てもらえる）</li> </ul> <p>宿泊・食事・酒の席に、昔の暮らしと SDGs の関連を考えられるプログラムを含めると、さらに濃い内容に発展してゆく可能性があります。</p>
その他 補足事項	<p>平成の観光プログラムで、「自然体験」というくくりで、自治体や NPO がボランティアに近い、安価な料金体形で進めてきた体験事業を、「SDGs を学ぶ」という軸で再構築して、しっかりと代金をもらえるものとし、活動の存続性を高める必要があります。</p> <p>他団体の ESD モデルプログラム開催場所として、宿泊施設くすのきを大いに活用いただけるようなネットワークづくりを進めていきたいところです。 （ご連絡お待ちしております）</p>

プログラム作成団体名：株式会社 三峯商事 自然の宿 くすのき